研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		21-326	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Effects of alcohol consumption on viral hepatitis B and C
飲酒がB型およびC型ウイルス性肝炎に及ぼす影響について

執筆者

Hong-Qin Xu [1], Chun-Guang Wang [2], Qiang Zhou [1], Yan-Hang Gao [3]

掲載誌

World J Clin Cases. 2021 Nov 26;9(33):10052-10063.　doi: 10.12998

キーワード	PMID
アルコール、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、ウイルス性肝炎	34904075

要　旨

肝臓は、肝炎ウイルスの主な標的臓器であると同時に、アルコール代謝に不可欠な臓器でもある。ウイルス性肝炎とアルコール依存症という2つの要因が重なると、二重の有害作用を発揮し、肝臓への障害が増強されることになる。疫学的研究により、アルコール依存症患者のC型肝炎ウイルス（HCV）感染率は、一般人口に比べて高いことが明らかになっている。アルコールとウイルス性肝炎［例：B型肝炎ウイルス（HBV）、HCV］の相互作用やその基礎となるメカニズムは十分に理解されていない。アルコールがウイルス性肝炎に及ぼす影響には、ウイルスの複製促進、免疫反応の低下、酸化ストレスの増大などがある。臨床的には、アルコール乱用は、B型およびC型慢性肝炎患者における末期肝硬変および肝細胞癌の発症リスクの増加と相関しており、アルコールとHBV/HCVの組み合わせが、より重篤な肝障害につながることが示唆されている。HBV感染者のHBVによる肝線維化、肝硬変、肝細胞癌に軽度から中等度の飲酒が及ぼす影響についてはまだ不明である。HBV感染者と異なり、HCV感染者については、安全なアルコール摂取量は確立されていない。軽・中程度の飲酒でもウイルス性肝炎と相乗効果を発揮し、肝疾患を急速に進行させる可能性がある。さらに、アルコール飲酒者では、一定期間禁酒してもインターフェロンベースの治療効果はコントロール患者よりも低くなる。したがって、特にHBV/HCV感染者では、肝臓を保護し、抗ウイルス治療の臨床効果を高め、慢性ウイルス性肝炎の急速な進行を防ぐために、禁酒することが強く推奨される。